

インターバンクの声（2016年2月8日）

週末の米雇用統計の結果次第では、115円を割れるような円買いが進む可能性もあったドル円だったが、失業率自体の改善と平均時給の伸びが、非農業部門就業者数の市場予想を下回る数字を相殺する格好となり、ニューヨーク市場の終値は指標前よりも若干ながら円安水準となった。就業者数の変化に対する細かい分析は専門家に任せるとしても、気になるのは今まで絶好調だったサービス産業の増加幅減少と過去3ヶ月ほど堅調だった建設業の増加数の落ち込みだ。市場は今回の結果で雇用判断を大きく変えることはなかったようだが、専門家の意見も少し時間が経てばネガティブに傾くような気もする。相変わらず原油価格動向などに市場が敏感な状況は続くと思われるが、今週、特に気になるイベントと言えばイエレンFRB議長の上下両院での議会証言だろう。議長の考え方に近いとされるニューヨーク連銀ダドリー総裁も先週「昨年12月の米利上げ以降、金融状況がひっ迫しており、こうした状況が続けば3月会合で考慮すべき」としており、議長が12月時点での市場に対する認識を低下させることはないと思うものの、僅かながらでも弱気な部分を示せば市場は飛びつくかもしれない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。